

と畜検査で発見される病気

豚編 No3 豚抗酸菌症



☆ どんな病気なの？

豚の抗酸菌症は非定型抗酸菌という細菌によっておこる病気で、生体で症状が見られることはきわめて少なく、と畜後の内臓検査で病変が発見される事が多い病気です。通常は口腔や腸のリンパ節に乾酪化病変(乾酪とはチーズの事です)として発見される事が多いのですが、重症例になると様々な臓器に病変が認められます。

☆ 非定型抗酸菌について...

結核の原因である結核菌は抗酸菌の一種です。抗酸菌のうち結核菌以外の菌を非定型抗酸菌と呼びます。非定型抗酸菌にはたくさんの種類がありますが、人や豚に病原性を有するものに MAC 菌(マイコバクテリウム・アビウム・コンプレックス)があります。MAC 菌は結核と同様に人の肺の病気を引き起こしますが、結核との違いは、人から人へは感染しないこと、病気の進行がゆるやかであること等があります。

☆ 豚抗酸菌症

豚抗酸菌症は MAC 菌に汚染した床敷用オガズや排菌豚の糞便によって経口的に感染するとされています。病変は主に口腔や腸のリンパ節、肝臓等の消化器系に認められますが、感染が全身に及ぶと肺や腎臓、脾臓等にも病変が認められ、全部廃棄の対象になります。肝臓の病変では表面や実質に粟～米粒大の白色結節が多数認められ、同様に白色結節が認められる、寄生虫性肝炎やサルモネラ症等との鑑別が必要です。

☆ 豚抗酸菌症の病理組織所見

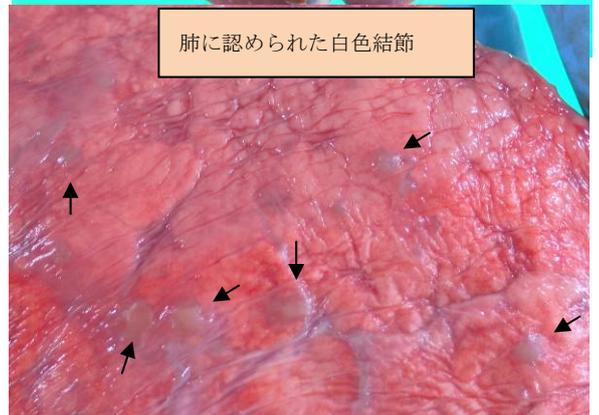
豚抗酸菌症の病理組織所見はランゲルハンス巨細胞(マクロファージの集まったもの)、類上皮細胞(マクロファージの変化したもので上皮のように見える)、結合組織で構成される肉芽腫性炎症像が特徴的です。肉芽腫性炎は特定の病原体でみられ、肉芽腫は様々な理由で炎症の原因物を体外に排出できない場合に、それを組織の中で閉じ込めてしまおうとする反応と考えられます。



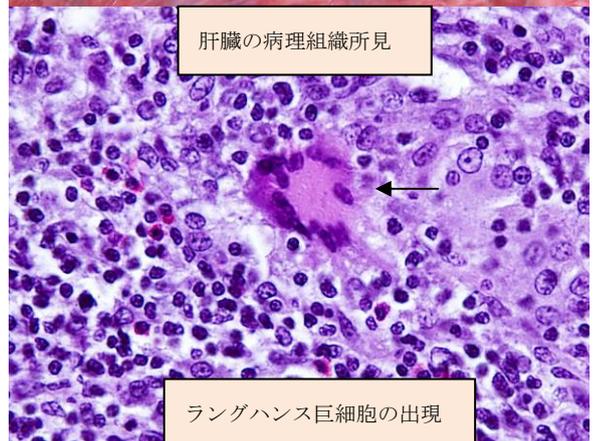
腸管膜リンパ節の乾酪結節



肝臓に認められた白色結節



肺に認められた白色結節



肝臓の病理組織所見

ランゲルハンス巨細胞の出現



脾臓にあるランゲルハンス島という組織と名前が似ているけど、どちらも人の名前に由来しているにゃん★